

|| 直言 ||

今に生きるライファイゼンの協同組合精神

—F.W.ライファイゼン生誕200年—

2018年は、ドイツ農村信用協同組合の父、フリードリヒ・ヴィルヘルム・ライファイゼンが1818年3月30日に、ライン川中流域右岸の支流ジーク河畔の小さな町ハムに生まれた生誕200年（没年1888年）である。ドイツ・ライファイゼン協会は今年を「ライファイゼン年2018」として、その協同組合精神を今に伝えようとしている。

欧州での協同組合運動のスタートは、イギリスのロバート・オウエン（1771～1858年）の博愛主義思想の弟子たちの「ロッチデール公正先駆者組合」（1844年）にしり、フランスのシャルル・フーリエ（1772～1839年）などに導かれた生産者組合（1833年に最初の生産者組合）にしり、生まれてまもない労働者階級の社会主義思想と労働組合運動に導かれた協同組合運動であった。ところが、遅れて資本主義の道を歩みだしたドイツでは、社会問題の中心は町場での職人的小営業者や農村での農民の高利貸しへの借金奴隷化であった。そこで、職人に原材料購入資金を融資する市街地信用組合（1850年）をザクセン州で立ち上げたのがヘルマン・シュルツェ・デーリッチュ（1808～1883年）であった。この信用組合の成功をもとに、デーリッチュの政府への働きかけで、1867年には「プロイセン産業経済組合法」が公布され、1871年にはこれを協同組合法として、この年に成立したばかりのドイツ帝国の法律に認めさせている。

ライファイゼンは、ルール工業地帯の南の農村ヴェスターバルトで、封建領主の支配から脱して自営農民になったばかりの農家が高利貸しからの収奪に苦しむのを見かねて、長期低利の営農資金（5年償還・利子6.25%、10年償還・利子5.75%）を貸し付ける農村信用組合（1862年）を立ち上げた。村々に立ち上げられる信用組合は、事業範囲を資金貸付、それも営農資金に限定した。貧しい農家から出資金を集めることは難しかったので、貸付資金は寄付や金融機関からの借入（利子4.5～5%）によるものであった。活動範囲を教会の教区（数集落）というできる限り小地域とし、「見知った者」の無限連帯責任制を確認した。デーリッチュの市街地信用組合とならんで、農村ではライファイゼン型の農村信用組合が登記協同組合として法的市民権を獲得して成長していったのである。

さて、わが国ではライファイゼンといえは、「一人は万人のために、万人は一人のために」

九州大学名誉教授
株式会社愛媛地域総合研究所 代表取締役
村 田 武



という協同組合理念を象徴する標語の生みの親として知られているが、牧師であったライファイゼンは、このキリスト教に発する博愛主義的標語とともに、「一人ではできないことも、みんなでやればできる」という標語を掲げて信用組合を組織した。

この「一人ではできないことも、みんなでやればできる」を活かして、農村を活性化させようという運動が、現代ドイツ農村にある。全国の農村では、「100%再生可能エネルギーでむら起こし」運動が盛んである。再生可能エネルギー事業で電力を自給し、バイオガス発電機やバイオマスボイラーから出る熱で地域暖房システムを構築する取り組みである。これに村民が自由に参加できるようにするには協同組合が最適である。しかも、農村や地方都市には、ライファイゼン信用組合の後身「ライファイゼンバンク」や、デーリッチュの市街地信用組合の後身「フォルクスバンク」が顕在である。再生可能エネルギーによる電力は国の固定価格買い取り制度で価格が保証されているので、信用組合にとってはリスクの小さい融資先である。こうして、今や全ドイツで「エネルギー協同組合」が、900近く組織されている。

ところが、バイエルン州の最北端のレーン・グラプフェルト郡は、旧東ドイツのチューリンゲン州と接しており、「協同組合」といえば社会主義の「農業生産協同組合」、つまり「無理やりの集団化」と同じものだった。そこで、農業者同盟郡支部のリーダーは、「ドイツ農村にはライファイゼンの協同組合運動があるではないか」と説得した。バイオガス発電事業で利益を上げられるのは、家畜糞尿やデントコーンなどメタン原料をもつ農家だけだ。農地を農家に貸し付けている非農家も、ガス発電機から発生する熱を利用した温水による地域暖房をやれば利益を上げられる。それには誰でも参加できるエネルギー協同組合を設立しようではないか。こうして、「F.W.ライファイゼン〇〇村エネルギー協同組合」が30に近い村々で設立されることになった。その際に村民を励ましたのは、ライファイゼンの「一人ではできないことも、みんなでやればできる」であったという。この地域を何度も訪ねている私には、「ライファイゼンが今に生きている」というのが実感である。